

世界遺産登録でつながる

校長 嶋見 靖之



道路から見える体育館の窓には6年生のアイデアによる「佐渡を世界遺産に」の文字が白いライトに浮かんでいます。今年も相川町商工会青年部とAWGPの皆さんがクリスマスイルミネーションを飾ってくださいました。

今日で2学期が終わります。終業式は各教室で行いました。私は放送で「めあてに向かってやり抜く」ができたこと、新型コロナウイルス感染防止を頑張ったこと、そして児童会活動を頑張ったことなど、2学期を振り返って話をしました。そして元気に3学期を迎えましょうと話を締めくくりました。

さて、今月6日「佐渡金銀山子どもサミット」がオンラインの形で行われました。そこでは相川小学校5年生が北沢浮遊選鉱場跡で収録した「やわらぎ節」が上映されました。映像から相川の伝統芸能を誇りに思う子どもたちの気持ちが伝わってきました。

このサミットでは県内小学校の児童が学習成果を発表しました。その中で、島外の学校が佐渡と自分達の地域とを関連付けて学習していることがわかりました。金を江戸に運ぶ道中の地にある小学校、学校の閉校と佐渡金銀山とを関連付けて考えている小学校、学校の近くに新潟空港がある小学校。いずれの学校も佐渡と自分達とのつながりを感じながら発表していました。

また、参加した児童が「登録されてたくさんの人から佐渡を知ってもらえることは、新潟県を知ってもらえることにもなる」と話していたのが印象的でした。佐渡金銀山の学習によってつながりが広がることを感じました。佐渡金銀山をはじめ相川の歴史や文化などを学ぶ相川学をこれからも推進していきたいと考えています。

感染拡大防止の中、皆様にご協力いただき2学期を終えることができました。感謝申し上げます。3学期もよろしくお願いたします。良い年をお迎えください。